

公益財団法人日本バレーボール協会 2014 年度臨時評議員会 概要

1 日 時：2014 年 4 月 23 日(水) 14：02～16：20

2 会 場：東京体育館第 2 会議室

3 出席者：

評議員総数 20 名

出席評議員 17 名

梅野實、遠藤俊郎、河合信行、河本信正、迫田義人、嶋岡健治、清水雅彦、
田村悦智子、中島茂、永井多恵子、西川友之、萩原秀雄、不老浩二、村井恒夫、
柳橋武、山田道人、山根武

監事総数 3 名

出席監事 3 名

大西浩志、高橋治憲、廣紀江

理事総数 15 名

出席理事 6 名

羽牟裕一郎、岩満一臣、小島和行、下山隆志、竹内浩、西脇克治

4 議 長：西川友之評議員

5 決議事項

- (1) 評議員候補者の推薦について
- (2) 役員報酬規程の改定について

6 議事の経過の要領及びその結果

議長が開会を宣し、本評議員会は、定款第 24 条の規程に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。続いて議事録記名押印評議員に嶋岡評議員、田村評議員を選出した。

議事開始前に代表理事より、評議員会運営規程に基づく会議進行補助のための事務局員の同席、及び代表理事又は担当理事に代わる事務局員による案件説明実施について議長の許可を受けたいとの発言があり、議長は事務局員の同席と発言を許可した。

(1) 評議員候補者の推薦について

2014 年 6 月 24 日に開催される定時評議員会の終結の時をもって、現評議員 20 名のうち 17 名が任期満了になる事を受け、評議員会として推薦する各評議員推薦候補者の賛否を諮り、

17名の評議員候補者を承認可決した。

評議員会にて決議された候補者と4月15日の第1回臨時理事会で選出された候補者、併せて計24名（内9名が評議員会と理事会双方で承認された候補者）を評議員選定委員会に提出することとなる。その後、評議員選定委員会での審議を経て、評議員選定委員会が次期評議員を最終決定（選任）する。

(2) 役員報酬規程の改定について

役員報酬規程の改定について以下の通り説明がなされ賛否を諮り、これを承認可決した。

2013年の6月22日開催の2013年度第4回理事会にて、役員（常勤理事）の期末手当の支払停止とこれに伴う月額給の変更が決議された。この決議は、現行役員のうち常勤理事の報酬は月額給与と期末手当（賞与）からなるが、実質的には固定報酬で年俸制と変わらないため、月額給与に一本化（期末手当は今期中の支払を停止）して簡素化を図るという暫定的な取り扱いを決めたものであった。

なお、役員（常勤理事）の期末手当の支払停止を正式決定するには、役員報酬規程改定について評議員会での承認を得る必要がある。そのため、今回の評議員会にて役員報酬規程改定案の承認を得ることとなった。

7 報告事項

(1) 第5期（2014年度）事業計画について

第5期（2014年度）事業計画について以下の通りに報告が行われた。

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、ボータレス化、情報化、少子高齢化など急激な環境変化の中で、バレーボール競技の普及および振興を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで国民の心身の健全な育成、発達、維持および人間性の向上に寄与し、豊かな社会の形成に貢献することが目的である。

2013年11月に開催した各大陸のチャンピオンが戦う、ワールドグランドチャンピオンズカップでは、全日本女子チームがロンドンオリンピックに続き銅メダルを獲得した。更に、次世代を担う若い選手達も、6月にチェコで開催された第17回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）において第3回大会以来の銀メダルを獲得、7月にロシアで開催された第27回ユニバーシアード競技大会では男子チームが銅メダルを獲得、10月にメキシコで開催された第1回世界U-23女子大会において銅メダルを獲得するなど、目覚ましい成果を挙げ、日本国民に夢や勇気、感動をお届けすることができた。その勢いを更に加速させ、全日本男子チーム、ビーチバレーボールを含め、バレーボール界全体の活性化に貢献する。

本年を本会の基盤強化の年と位置づけ、バレーボール界の発展に向け下記重点課題に関し全組織を挙げて取り組む。本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する。

■育成強化

「すべての道が2020東京オリンピックに通じる」ことを念頭に

1. 中長期を見据え一貫した選手強化体制を確立し、2020年を念頭に置いた強化計画に全力で取り組む
2. 指導者の資質向上と指導カリキュラムの刷新により、コート上で考えプレーできる選手を育成する
3. バレーボール界における暴力・体罰の根絶を図る
4. ビーチバレーボール競技会の整理統合と運営、選手の発掘・育成・強化に全力をあげる

■組織の強化

1. 迅速な意思決定のため、組織強化、情報収集、人材登用を行っていく
2. 経費削減とプロモーション強化による収入増を図り、財務基盤を強化する
3. 本会加盟団体との情報共有、意思疎通を図っていく
4. 各方面の意見を事業運営に反映させるため、理事会に参加する運営委員をおく

■国際力の強化

1. 国際バレーボール連盟（以下、「FIVB」という。）およびアジアバレーボール連盟（以下、「AVC」という。）への本会の参画・連携を更に強化する
2. バレーボールの価値を創造し、世界における日本バレーボールのプレゼンスを向上するための事業を効果的に推進する

詳細は資料の記載通り。

(2)第5期（2014年度）収支予算について

第5期収支予算について以下の説明が行われた。

第5期の収支予算案については経理規程に則り、①収入見込み算出②各本部に概算配分額提示③概算配分を各本部で調整④本予算案策定の順で予算編成を行った。

まず、収入見込みだが、経常収益計として、18億2,398万円を計上した。

経常費用は、事業費が16億6,948万円（内訳は、競技力向上事業費6億8,248万円、国際大会開催・国際貢献事業費2億7,336万円、講習会指導者等養成事業費8,460万円、全国大会等開催事業費3億9,389万円、マーケティング事業費8,835万円、用具等公認、公認品販売事業費3,203万円、Vリーグ等開催事業費9,375万円、地域グループ育成事業費1,737万円、AVC代行事業361万円）、管理費が1億4,842万円、経常費用計として18億1,790万円を計上した。

次に公益認定の基準に関わる数値だが、収支相償については公益目的事業である公1から公4まで、予算どおりに事業を執行できれば、基準を満たすことになる。また、公益目的事業比率については78.90%となり、これも50%以上の基準をクリアしている。

詳細については、収支予算書内訳表の通り。

(3) 「バレとも」の運営開始の報告について

「バレとも」の運営開始について以下の通りに報告が行われた。

2014年3月末をもってWeb上のファンクラブサイト「バレーボールもばいる」が終了となり、4月よりPC・スマートフォン・タブレット端末に向けた、「バレとも」が新たにスタートした。チケット優先予約販売、プレゼント企画、全日本チーム日記、選手インタビューといったコンテンツの充実を図り、今後更なる会員数獲得を目指したい。

以 上